

## 最近の農薬の動向

### 需給と価格の見通し

農薬(殺菌剤・殺虫剤)については本誌に農研の能勢先生が解説されているが、この機会に最近における農薬の生産動向について触れてみよう。

#### 農薬の生産動向

農薬の生産金額は、44農薬年度(43年10月～44年9月)には、前年より17%増加して881億円、39年度当時の約1.9倍となった。

**殺虫剤** は前年度にくらべ4%増加し、39年度に対比し1.5倍となった。すなわちウンカ、ヨコバイ等の水稻主要害虫を対象としたカーバメート系殺虫剤、パラチオンに代る低毒性有機りん系殺虫剤の量産化により生産が増加した。

**殺菌剤** の生産金額は前年度を20%上回って、39年度の1.9倍となった。とくに、いもち病を対象とした抗生物質系殺菌剤と低毒性有機りん剤などが増加している。

**殺虫殺菌混合剤** は前年度より31%増加し、39年度の4.9倍に著増した。

項 目	44年度(100万円)		前年対比 (%)	
	生産	出荷	生産	出荷
殺 虫 剤	35,977 (40.8)	34,264 (42.2)	104.0	108.1
殺 菌 剤	23,251 (26.4)	20,397 (25.1)	120.1	116.9
殺 虫 殺 菌 剤	7,475 (8.5)	6,698 (8.3)	130.6	131.9
除 草 剤	18,226 (20.7)	16,784 (20.7)	139.1	131.4
殺 虫 除 草 剤	69 (0.1)	72 (0.1)	79.9	113.3
殺 単 剤	604 (0.7)	627 (0.8)	117.3	126.3
補 助 剤	784 (0.9)	762 (0.9)	144.2	136.2
植物成長調整剤	1,490 (1.7)	1,275 (1.6)	129.8	110.0
農 薬 肥 料	128 (0.1)	122 (0.1)	76.3	70.7
そ の 他	132 (0.1)	128 (0.2)	77.5	74.2
計	88,135	81,128	116.9	116.5

注 生産と出荷欄の( )内は構成比、農林省農政局調

**除草剤** の生産金額も前年度を39%上回り、39年度の2.1倍となった。

44年度の農薬の生産、出荷金額は前表の通りである。

44年度中の農薬生産金額の主要薬剤別構成比は、殺虫剤が41%で最も多く、殺菌剤は26%、除草剤は21%、殺虫殺菌剤は9%で、39年当時にくらべると、とくに殺菌剤の比重が高まり、殺虫殺菌剤の進出も著しい。

近年、農薬の使用増大とその急性、慢性毒性が問題化するにつれ、低毒性農薬の開発が更に進められているが、有機水銀剤が全面的に非有機水銀剤に切り替えられたのに続き、パラチオン剤、TEPP剤についても44年末をもって、低毒性農薬に切り替えられており、低毒性農薬の生産が増加している。

**44年度の農薬登録状況** 新に登録された農薬は1,145件(殺虫剤438件、殺菌剤214件、殺虫殺菌剤313件、除草剤141件など)で、再登録は1,109件で、44年9月末現在の有効登録数は6,269件で、前年同期にくらべ688件の増加となっている。

※44年度に新規化合物製剤として登録されたものは31種(殺虫剤5種、殺菌剤13種、除草剤10種、その他3種)で、新製剤は102種(殺虫剤32種、殺菌剤10種、殺虫殺菌剤43種、除草剤14種、植物成長調整剤1種、その他2種)となっている。

また、これを用途別にみると、殺虫剤の新規化合物としては稲のニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類を防除対象とした有機りん剤、およびツマグロヨコバイ、ウンカ類を防除対象としたカーバメート剤であり、果樹、野菜関係では、りんご、みかん等のハダニ類を対象とした殺ダニ剤、てん菜の害虫防除用として有機りん系薬剤などがある。

このほか新製剤としては、稲の害虫を対象とした微量散布用薬剤のほか、稲の病害虫を対象とした混合剤を中心に、各種の混合剤が依然として増加している。

殺虫剤の新規化合物製剤では、とくに野菜の病害防除を対象とする薬剤の台頭が著しく、これらの多くは国内の開発によるもので、農薬の国産化技術は年々目ざましい進歩を示している。

たとえば、ウリ類のうどんこ病、たんそ病、べと病、トマトの葉かび病、はんでん病、大根のいおう病、ばれいしょの疫病等を対象とした薬剤、果樹関係では、かんきつのかいよう病、桃の灰星病等を対象とした薬剤等の開発がそれである。

稲作関係では、いもち病防除を対象とした有機りん剤および、しらはがれ病を対象とした有機ニッケル系の薬剤があり、このほかの新製剤としては、いもち病を対象とした混合剤が多い。なお微量散布用薬剤としてEDP

P剤, カスガマイシン剤が登場し注目されている。

殺虫殺菌剤は, 前年に引続き, 稲の主要病害虫の同時防除を目的に, 新しいもち病防除剤を中心とした殺虫剤との混合剤が, そのほとんどである。

新しい製剤形態のものは43種にのぼり, 殺虫剤, 殺菌剤の開発と相まって, その組合せも多様化し, したがって製剤の種類も急増している。

除草剤のなかでは, 稲作用除草剤として, ノビエ, マツバイ, その他1年生雑草の防除に使用する各種の混合剤が登場した。

畑作用としては, 野菜畑を対象とした新しい除草剤の登場が目立った。このうち新規の化合物製剤は稲作用3種, 畑作用6種に及んでいる。

最近, 農業工業をめぐる国際化の動きが活発となり, 昨年に引続いて45年1月から第2回目の関税引下げが行われ, 従来の従価16%から14%に引下げられた。また資本自由化にも備えて国際競争力を強化するため, 農業企業の体質改善が図られている。

農業の農村価格の動向を「農村物価指数」〔40年度=100〕によってみると, 量産化や販売競争などによって弱含みに推移し, 43年度の水準は前年度を1.4%下回る97.5となり, 44年度も引続き微落した。

殺虫剤と殺菌剤の値下りによる影響が大きく, 除草剤は横ばい傾向にある。

### これからの見通し

#### 1. 需給の動向

農業はこれまで, 稲作, 果樹作, 野菜作などの防除量の拡大に伴い, 年々かなり消費が増加してきたが45年度には, 農業消費の過半を占める稲作の生産調整が行われるので, 前年度をやや上回る程度にとどまると見込まれる。

一方, 供給面では国際化の進展などから, 企業の体質改善が迫られており, 国際競争力の強化と輸出の振興を図るとともに, 引続き低毒性の農業の開発と, 量産合理化による生産体制の整備が進められるものとみられる。

(1)殺虫剤 低毒性農業への転換とともに, 殺虫剤の生産は引続き有機りん系薬剤, カーバメート系薬剤, ならびにこれらの混合剤が増加するものとみられる。

(2)殺菌剤 水稻では, いもち病防除を対象とした水銀剤にかわる抗生物質系薬剤, 低毒性有機りん剤とその混合剤が引続き増加するものとみられ, 紋枯病および白葉枯病防除薬剤も増加するであろう。

果樹, 野菜関係では, とくに野菜病害を防除対象とする有機硫黄系薬剤, ジオカーバメート系薬剤などを中心に, 各種の低毒性薬剤が増加するであろう。

(3)殺虫殺菌剤 防除作業の省力化と防除効果の面から

最近需要の強い殺虫殺菌剤は, 新しいもち病防除剤と, 稲の主要病害虫防除剤との各種混合剤を中心に, 引続き増加するものとみられる。

(4)除草剤 除草剤の消費は, 稲作関係を中心に増加傾向にあるが, 今後林業用薬剤もかなり増加するものとみられる。また除草剤の開発研究も進んでいる。とくに今まで比較的効力の及ばなかったマツバイなどに効力を持つもの, および残効性が長く, 散布回数の減少をねらった新薬剤が増加するものとみられる。

#### 2. 価格の動向

45年度における農業の農村価格は, 企業の人件費などのように生産費の上昇もあるが, 量産合理化によって, 全般的には前年度にくらべて, おおむね弱含みに推移すると想像される。

殺虫剤ではE P N剤, B H C, N A C剤, M P M C剤, M P P剤等は弱含みに推移するであろうし, 殺菌剤ではカスガマイシン, E D D P, I B P, プラストサイジンS剤などのいもち病防除剤と, 有機機素粉剤などは, 前年程度か弱含みに推移するとみられている。

硫酸銅などは, 原材料費の値上りでかなりの値上がりが見込まれている。

除草剤ではP C P粒剤, P C P・M C P粒剤, N I P粒剤などは前年に引続き弱含みとみられ, 2.4 P A剤, C A T水和剤などは横ばいか弱含みが見込まれている。

7月の下旬になってやっと“つゆ明  
あとかき

け”が宣言されたと思ったら, 手の裏  
を返したように猛暑の連続。これに  
“光化学スモッグ”というおまけまでついて, 東京  
から次第に隣接県に波及して行きそうです。編集子の  
居住地域は, 東京でも珍らしい恵まれた環境にあ  
ったところですが, どうやらお手あげのようです。

東大構内の榎(けやき)の葉が殆んど全部落ちた  
という写真を見ましたが, 拙宅の榎の葉も, “わく  
ら葉”が落ちるにすれば, 今年は多いように思いま  
す。これも光化学スモッグの影響なのでしょうか?

さて, 45年産米の第1回収穫予想が発表されましたが, 関東以北が好天に恵まれて, どうやら42年の  
大豊作と同じような豊作が予想されているとのこと  
です。

減反, 休耕など, 政府の目標を上回ったはずの  
ものが, 豊作につながるとなると, これは一体どのよ  
うに解釈すべきでしょうか?

酷暑の折柄, 野暮談議はこのくらいにして, 皆様  
のご精励をお祈り致します。(K生)